

ドイツ人映画監督の見た『国立京都国際会館』

戦後日本の代表的建築『国立京都国際会館』の現代における
意義を、映像を通して再検証・再評価したドキュメンタリー

建築シリーズ1



ジャパン・プレミア上映会

Beyond Metabolism

監督: フォルカー・ザッテル、シュテファニー・ガウス / 2014年 / ドイツ / 41分 / カラー / 音声: 英語・日本語 / 日本語字幕付

© Kyoto International Conference Center

フォルカー・ザッテル & シュテファニー・ガウス 監督
メタボリズムをこえて

2014年4月27日(日) 13:30 ~ (13:00開場 / 17:30頃終了予定)

会場: **国立京都国際会館** 会議場 Room A

入場無料 (申込不要 / 当日先着200名)

上映後、本作品の2人の映画監督、および、国立京都国際会館の建築やデザインを手掛けた建築事務所・大谷研究室や剣持デザイン研究所の方々をお迎えして、座談会や館内ツアーを開催いたします。

プログラム

- 第一部 作品の趣旨について ※日本語通訳付
フォルカー・ザッテル、シュテファニー・ガウス (映画監督)
- 第二部 『メタボリズムをこえて』作品上映 (14:00~14:45頃)
- 第三部 座談会『歴史を目撃した未来への文化遺産—国立京都国際会館をめぐる』(15:00~16:30) ※日本語通訳付
参加者: フォルカー・ザッテル (映画監督)、シュテファニー・ガウス (映画監督)
山本 敬則 (大谷研究室 代表取締役)、松本 哲夫 (剣持デザイン研究所 代表取締役)
コーディネーター: 松隈 洋 (京都工芸繊維大学 教授)
- 第四部 建築家とインテリアデザイナーによる館内ツアー (16:30~17:30頃)
建築コース、インテリアコース各先着30名

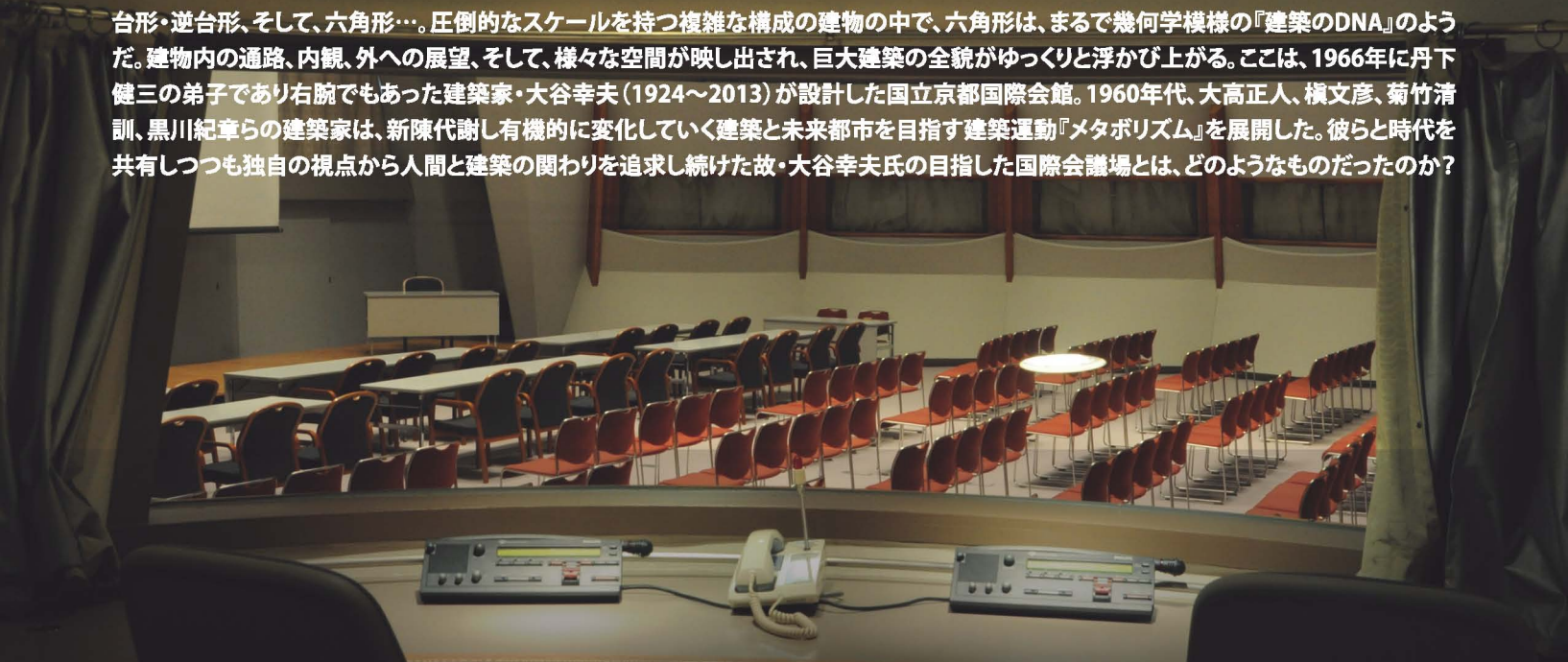
©Katia Fouquet

主催: (公財) 国立京都国際会館、Goethe-Institut Villa Kamogawa 後援: 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、京都市 協力: 京都市交通局 助成: German Films、AG Kurzfilm



ドイツ人映画監督の見た『国立京都国際会館』の建築とその使命

台形・逆台形、そして、六角形…。圧倒的なスケールを持つ複雑な構成の建物の中で、六角形は、まるで幾何学模様の『建築のDNA』のようだ。建物内の通路、内観、外への展望、そして、様々な空間が映し出され、巨大建築の全貌がゆっくりと浮かび上がる。ここは、1966年に丹下健三の弟子であり右腕でもあった建築家・大谷幸夫(1924~2013)が設計した国立京都国際会館。1960年代、大高正人、横文彦、菊竹清訓、黒川紀章らの建築家は、新陳代謝し有機的に変化していく建築と未来都市を目指す建築運動『メタボリズム』を展開した。彼らと時代を共有しつつも独自の視点から人間と建築の関わりを追求し続けた故・大谷幸夫氏の目指した国際会議場とは、どのようなものだったのか？



本ドキュメンタリーでは、普段は見ることの出来ない国際会議場の日常が、静謐で美しい映像によって綴られていく。また、貴重な映像資料や同時通訳者の回想も交えて、1997年の地球温暖化防止京都会議(COP3)と「京都議定書」の採択に至るまでの国際会議場での緊迫した舞台裏を浮き彫りにする。

ドイツの原発解体ドキュメンタリー映画『アンダー・コントロール』で国際的に高い評価を得たフォルカー・ザッテルとシュテファニー・ガウス両監督が、2013年冬、ヴィラ鴨川招聘アーティストとして3ヶ月間京都に滞在し撮影した作品。今年2月のベルリン国際映画祭で初上映され好評を得た作品が、いよいよ日本初公開！

©Volker Sattel



©Branka Prlic

フォルカー・ザッテル Volker Sattel

1970年ドイツ・シュパイアー生まれ。映画監督・カメラマン・脚本家。バーデン=ヴュルテンベルク映画アカデミーで、劇映画とドキュメンタリーの監督と撮影法を学ぶ。制作した多様な作品群は、ベルリン国際映画祭などの映画祭や展覧会、テレビなどで上映され、VG BILD-KUNST編集賞など数多くの賞を受賞。ドイツの原発を追ったドキュメンタリー『アンダー・コントロール』で国際的に高い評価を受けた。ポツダムのコンラート・ヴォルフ映画テレビ大学、および、ケルン・メディア芸術大学の客員講師。2013年冬、ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川の招聘アーティストとして3ヶ月間京都に滞在。現在ベルリン在住。

お問い合わせ:

(公財) 国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
Tel. 075-705-1218 (企画事業室)
com@icckyoto.or.jp
<http://www.icckyoto.or.jp/>

Goethe-Institut Villa Kamogawa
Tel. 075-761-2188 (内線31 #)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa



©Sattel und Gaus

シュテファニー・ガウス Stefanie Gaus

1976年ドイツ・ウルム生まれ。映画監督・脚本家・カメラマン。プラハ芸術アカデミー付属映画テレビ学校(FAMU)と、ケルン・メディア芸術大学の映画・テレビ部門で学び、コンラート・ヴォルフ映画テレビ大学にもゲスト滞在した。2007年より、ベルリン芸術大学にてドキュメンタリーと撮影の指導にあたっている。彼女の作品は、オーバーハウゼン国際短編映画祭、バンクーバー国際映画祭、ジュネーブ・ピエンナーレなどでも上映された。2013年冬、ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川の招聘アーティストとして3ヶ月間京都に滞在。現在ベルリン在住。

国立京都国際会館への交通のご案内



地下鉄丸線「国際会館」駅下車、4-2出口 徒歩5分

©Sascha Weidner